

# 水田コレクション名品展

Masterpieces of Beauty from the Mizuta Collection

2021

4/5 mon

23 fri

開館時間=午前9時30分～  
午後4時30分

休館日=土曜日、日曜日  
観覧料=無料  
会場=ギャラリー1

Open: 9:30~16:30  
Closed: Saturdays, Sundays  
Admission fee: free  
Place: Gallery 1

BIJINGA

喜多川歌麿(針仕事)部分、大判錦絵三枚続のうち左  
寛政六、七年(二七九四、九五頃)

# 美人画

BIJINGA

水田コレクション名品展  
Masterpieces of Beauty from the Mizutata Collection



浮世絵の創始者、菱川師宣の《見返り美人図》のような、下膨れした顔に小さい目の女性は、当時の人々にとって憧れの美人でした。このように、浮世絵に描かれた女性は理想とする美人の典型であり、同時代の美の規範が映し出されたものです。事実、美人画のスタイルは、時代の好みとともに次々と変わっていきました。明和期(1764~72)に華奢で中性的な鈴木春信の美人が一世を風靡すると、他の絵師まで春信風美人を描き始めます。天明期(1781~89)には鳥居清長の八頭身の美人が、寛政期(1789~1801)には喜多川歌麿の現実味を帯びた美人が大流行しました。そして江戸後期の退廃的な美人へと続きます。

このたびの展覧会では、師宣、宮川長春、懐月堂安度、川又常正、勝川春章の肉筆画と、石川豊信から春信、清長、歌麿、鳥文斎栄之、そして明治の月岡芳年、楊洲周延までの版画、加えて浮世絵の流れを汲む伊東深水の近代美人画を展示し、美人画の流れを概観します。各時代を代表する絵師が描く美人画を通して、豊かな美人風俗と理想美の競演をお楽しみください。



1、菱川師宣《見立石山寺紫式部図》絹本着色 一幅、江戸時代(17世紀末) 2、鈴木春信《六玉川井手の玉川》中判錦絵、明和4年(1767)頃 3、勝川春章《美人愛猫愛犬図》絹本着色 一幅、寛政元~4年(1789~92)頃 4、月岡芳年《風俗三十二相 みたさう 天保年間御小性(姓)之風俗》大判錦絵、明治21年(1888) 5、伊東深水《姿兒》絹本着色 一面、昭和23、24年(1948、49)

関連企画  
当館学芸員による  
スライドトーク  
4月16日(金) 午後2時~(約40分)  
会場：水田美術館 1階多目的ホール  
\*申込不要 \*要来館予約

※当館へのご来館は事前予約制となります。詳しくはHPをご覧ください。お電話にてお問合せください。(049-271-7327)  
※今後の新型コロナウイルスの状況により、展覧会及びイベントの変更等の対応を取る場合もございます。予めご了承下さい。

QRコードからの予約が便利です。  
※ご来館前日の午後3時までにご予約ください。

交通のご案内 / Access



【電車の場合】  
東武東上線坂戸駅乗り換えで東武越生線川角駅下車、踏切を渡り徒歩10分  
By train: From Sakado station of the Tōbu-Tojō Line, take the Tōbu-Ogose Line and get off at Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

【お車の場合】  
1. 関越自動車道「鶴ヶ島I.C.」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道407号線を直進  
2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折  
3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進  
4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口  
※鶴ヶ島I.C.より約20分

